

アフリカ農業 イノベーション・プラットフォーム構想

アフリカビジネス協議会 アフリカ農業WG

農業分野における基本方針および理念

- 国際的な開発目標である**SDGs**目標の達成と、これとリンクする形で、アフリカ自身が設定した優先課題(**Agenda2063**)、双方への貢献を目的とする
- 包摂的成長と持続的発展の基盤として自由で開放的な経済秩序を維持・強化し、アフリカ諸国、内外での**地域経済統合**を促進する
- 包摂的成長と持続的発展の牽引力である**イノベーションを推進**する。戦後様々な課題に向き合ってきた「課題解決先進国」だからこそ持つ経験・知識を活かし、日本の知見に基づく**制度設計・運用改善の提案**などを合わせて実施する
- **TICADモデル/プロジェクト（ショーケース化）**とするため、アフリカ政府の投資環境や諸制度整備の状況に応じて、民間主導の取り組みを加速し、日本の官の取り組みがこれを後押しする。

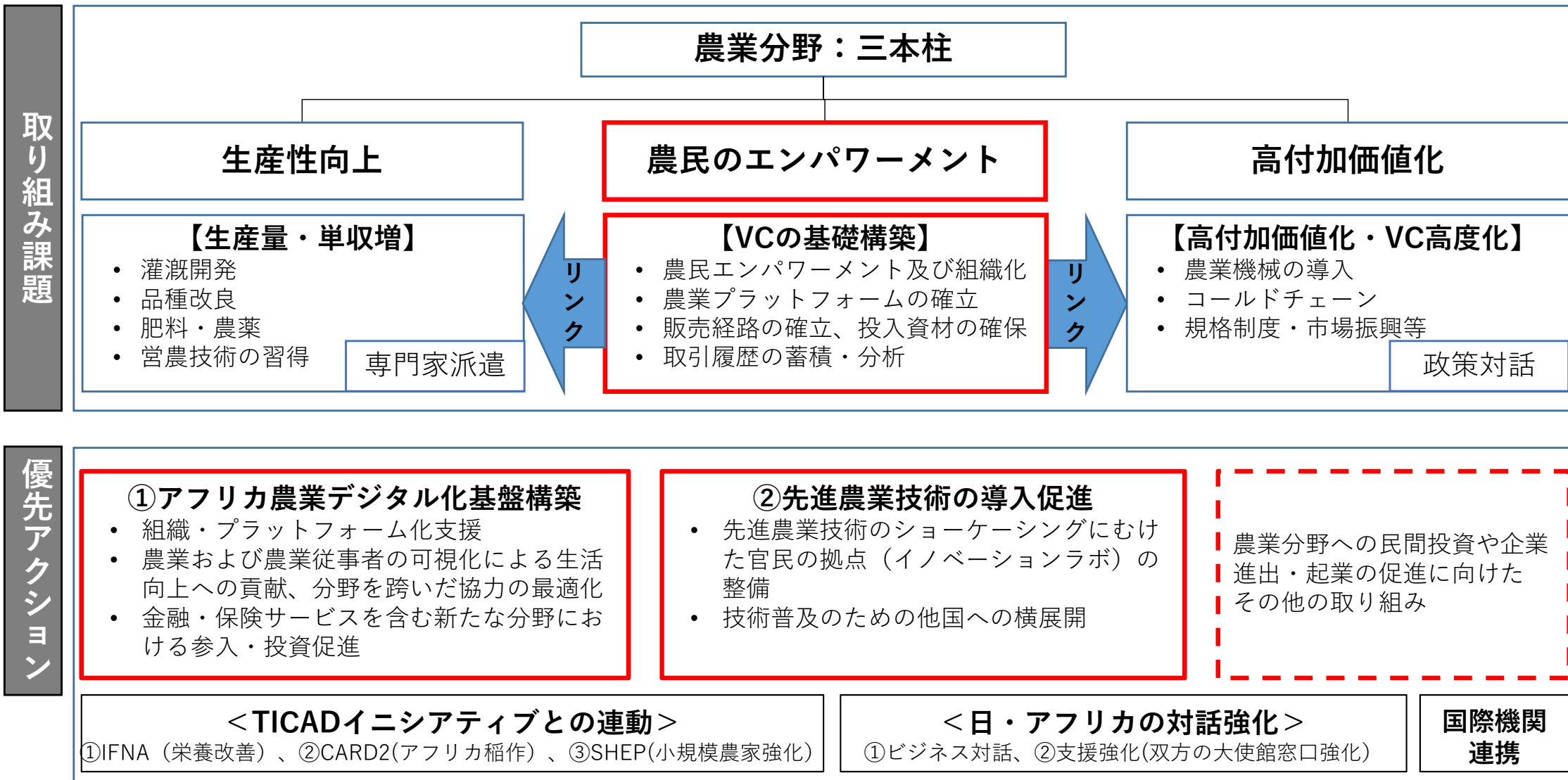


アフリカ農業の基盤を形成する**小規模農業の従事者への支援**を通じて、雇用の受け皿としての農業振興を含む地域の自律化・安定化に貢献する。

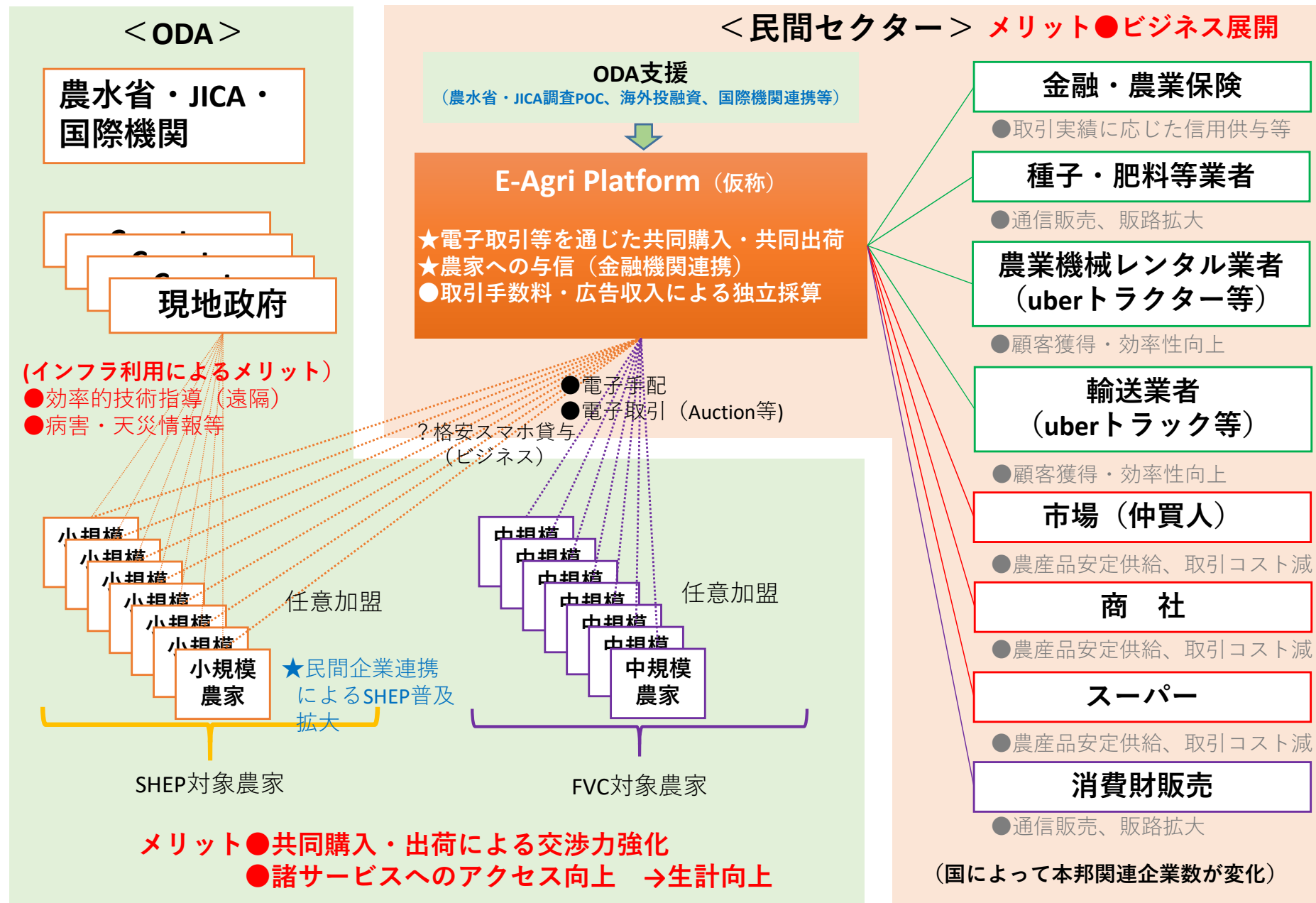
- アフリカが必要とする多岐にわたる協力ニーズを体系的に整理し、**特に強化を要する分野を含む相互連携を強化**する。
- Agenda2063：Aspiration1”Inclusive growth and sustainable development”およびAspiration6“Development is people-driven”の理念に基づき、**農業従事者のエンパワーメントをより推進**し、農村の生活水準向上のためのアフリカ農業イノベーション・プラットフォーム構想の基本方針を定める。

取り組みの全体像

- 「フードバリューチェーンの構築・強化を通じた協働推進・農民のエンパワメント」分野の強化を横串とした、「三本柱」の強化・連携促進に向け、まず優先的なアクションとして、①**農業デジタル化基盤構築**及び②**先進農業技術の導入促進**を推進。幅広い方面からの本邦企業の参画・投資、価値提供を推進。日本政府はTICADイニシアティブ及び政策対話等を通じこれを後押し。



① アフリカ農業デジタル化基盤構築



●JICAプロジェクトは、農家への情報提供・紹介を行う

②先進農業技術の導入促進

日本

(1)民間連携日本研修

- ✓ 政府幹部・ディーラー・農民組織代表の日本招へい

拠点国（数か国を選定）

(2)日・アフリカ農業イノベーションセンター

Japan-Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology (JAFICAT)

目的：先進的な技術や農業機械化の推進のための、展示・実証・人材育成・イノベーションの拠点を設置し、日アフリカの官民で推進。

活動内容：

- ① **広域政策アドバイザー派遣**（各国に政策提言・メーカーとの調整）
- ② 民間企業との協力による**製品等の展示・実証**（デモ地区農民に貸出）
- ③ 機械化のためのデモ地区**圃場整備**（農道、均平化：～10ha）
- ④ 収穫後処理施設～輸送の近代化推進（地元企業に貸出）
- ⑤ **イノベーションラボ化**（メーカー・研究機関の試験の場の提供）
- ⑥ トータルコスト検証・対外発信
- ⑦ アフリカ諸国に対する**人材育成拠点**（政策、メンテナンス）

重点国

(3) 民間連携展示（既存プロジェクトに活動追加）

- ✓ JICAプロジェクトサイト（試験場又は優良地区）に日本製品の実機展示・活用（購入・メンテナンスは民間企業と要相談）
- ✓ 農業祭などでプレイアアップ、ディーラー研修の場

(4) 農村金融スキーム拡充